

職場参加ニュース

障害のある人もない人も共に生きる職場・地域を

今年…世一緒はドアを拓けます



介護人養成研修 II

介護人養成研修 今年も9月に



花火大会夜店 7月25日

手伝いに 顔見せに 飲み

7月25日越谷花火大会 19時～世一緒が夜店に



水上公園花壇整備

春夏秋冬 水上公園の花壇整備

当会は5月末で、10年余りにわたる越谷市障害者就労支援センターの受託を終了しました。

これまで同センターでは、当会の直営事業である世一緒の活動の一部をピアサポート（本人同士の協力活動）による就労支援に活用してきましたが、6月からはできなくなりました。

でも、就労準備中の人、引きこもっている人、会社を辞めた人、さまざまな施設の利用者（と職員）、精神科のデイケアに通う人…異なる立場同士が壁をこえて出会う場はとても大事です。

地域で一緒に働きながら（グループワーク）、体験しながら（仕事発見ミッション）、語り合いながら（語る会、ピアサポート研究会）…他にも世一緒のピアサポートはいろとりどりのメニューが。

当会は世一緒の重要性を考え、公的な支えはなくとも、活動を持続し拡大します。あなたも参加しませんか。

問合せ： 世一緒 048-964-1819

shokuba@deluxe.ocn.ne.jp

越谷・水辺の市

8月11日（火）10～15

9月 8日（火）10～15



8月は子ども企画を予定。出店者募集中です。

世一緒 de キネマ



働いている人や夜型の人でもこれならOK!!

毎月第2か第3木曜 19:00～
軽食付き300円

映画も食事もおすすめメニュー
（シェフ・吉田弘一元センター所長）
048-9664-1819 に確認の上どうぞ

どうよ世一緒



月に1回土曜日。
世一緒を開けます。
10:00～

特にプログラムは作りません。ぶらっとどうぞ。午後は閉める時もあるので、ご了解を。

共にはたらく街を拓く

べんきょう会

7月31日（金）18:30～

越谷市中央市民会館5F

第7会議室

「越谷市就労支援センター
—やってきたこと、残されたこと」
話し手・沖山稚子さん（前所長）
参加費 300円

介護人養成研修 II

昨秋実施したピア介護人養成研修を一般にもひろげて開催!

9月～10月 北越谷で

越谷市、春日部市には、他地域にない住民同士の助け合いによる介護人制度があり、その普及啓発のための研修です。

現在準備中。8月から募集します!

定番メニュー（一部）

👉 世一緒当番：カギ開閉、掃除、電話連絡、来客対応、事務補助…
（就労準備中の障害者がペアで）

👉 見学・交流：就労準備中の障害者がグループで、企業、施設、団体等を訪問。ニュースで報告。

👉 身近な仕事起こし：世一緒に入っている障害者がグループで行う仕事を企業や個人から募集するミッション。



総会やりました 一人一人が語り継ぐ事業報告



6月28日、NPO法人障害者の職場参加をすすめる会の2015年度定期総会と記念シンポジウムを開催した。議長は、NPO法人共に生きる街づくりセンター代表理事の吉田久美子さん、それに当会運営委員で株式会社ニューオタニ社長の尾谷英一さん。

総会の事業報告については、議案読み上げはせず、本部事業は写真のように世一緒の当事者スタッフたちが事業別に役割分担して、体験報告した。

直前まで出てくるのをためらっていて、やっと出て来れた者やけっきょく欠席した者もいた。就労していない者も就労している者もあり、一見たどたどしい報告が、リアルに地域・職場の現在を伝えていたと思う。同じように委託事業であった市障害者就労支援センターの報告は、この5月末まで職員だった面々が前に出て、かわるがわる取り組みと想いを語った。以下めいめいの一言。



「毎週金曜日に日替わりスタッフをやらせていただいている友の由紀恵です。よろしくお願いします。しらこぼと水上公園の花植え作業をやったり、竜巻の時の大袋の近くを取材しに行ったことを職場参加ニュースの原稿で書きました。あと、市長さんへの提言にも出ました。以上です。」



「こんにちは。毎週金曜日、世一緒で当番をしています、山崎有子です。地域適応実習で生涯学習課でポスターまるめをしました。実習のことを市長さんに提言しました。職場参加ニュースには、世一緒のイベントが載っていますので、すごくわかりやすいです。以上です。」



「毎週、月曜日の当番をやっている佐藤秀一です。しらこぼと水上公園で肥料をやって花を植えて、最後に水をやっています。市役所でシュレッダーをやりました。以上です。」



「毎週水曜日、いつも当番をしている秋山俊也です。水辺の市の机や椅子を運ぶのを手伝っています。ピラマキもやっています。」



「毎週月曜日当番の内藤雄介です。主に当番の仕事だけでなくしらこぼとの花壇の手入れをしたり、あとポスティングなどもやっています。以上です。」



「毎週木曜日当番の新井里佳です。産業フェスタ、越谷総合体育館で11月の終わりと12月の初めにやるイベントで、世一緒は2日間やっています。外では昆布を売り中では洋服とクッキーを販売しています。あと、仕事発見ミッションで自分たちで仕事の開拓をしています。」



「こんにちは。世一緒でお世話になっている浅井です。世一緒では年に2、3回、勉強会や定期総会があります。わたしも参加していますけれど、皆さんもぜひ参加していただきたいと思います。私は隣の春日部市の豊野工業団地にあるニューオタニで働いています。靴底加工の本底を作る会社です。私はのり塗りと塗装の仕事をさせていただいています。がんばりますので、よろしくお願いします。」



「3年かけて就労支援センターとハローワークの人と一緒にやっていただいて、やっと仕事が見つかりました。水島です。草加市立病院で一応所属が栄養課。その中で下膳のほうを担当しています。11月1日に直接草加市立病院に契約をしに行きました。その日からすぐ仕事に入りました。仕事の時間ですが、週5日で17時から20時です。ちょっと遅れましたが、11月4日、会社で入社式を行いました。」



「わたしは世一緒の日吉です。この様にみなさん日々頑張っていてこれからも世一緒の活動、本部事業に力を入れてまいりますのでよろしくお願いします。」

以上で2014年度本部事業報告が終わった。

続いて委託事業（越谷市障害者就労支援センター運営）報告も、元職員たちからの発言で行った。



沖山 5月まで所長を務めさせていただいた沖山と申します。10年間越谷市役所から委託されてきた就労支援事業の受託が止まり、新しい就労支援センターが仕事をしております。資料（末尾参照）に載せてあるのは直近3年間を中心とした実績を、5月のプロポーザル・コンペで市役所に語ったものです。特に昨年度は、人事を一新して、いつでもどこでも行けるように事業所開拓をして取り組んだおかげで、初の114件の就職をまとめる事が出来ました。業務の量と質を上げることだけに集中してしまったため、コンペ対策が全然なかったため、一生懸命やっていた職員が失業することになってしまったことを反省しています。

この1ヶ月、新しい支援センターにうかがったお客様が、世一緒に立ち寄って行かれます。今までやっていたスタッフは、手帳のあるなしに関わらず、求人情報のあるなしに関わらず、何時間からでも、という形で多様な働きをめざした活動をしていただかげで、そのつもりで行った方が、「手持ちがないからまた来て下さい」、「そんなに毎月来ないでいいですよ」という形で対応され、当惑されています。

これは新しい支援センターが悪いんじゃないんですね。やりすぎた私たちが悪いんでもない。こういう舵を切って選んだ市役所のおおえがあるんでしょから、そのへんを詳しく調べて、データを基に、新しい支援センターの支援をしっかりとるようにと、やっていきたいと思ひます。



阿久津 子どもは重度の障害がありまして、就労時間は短く、かつ毎日ではできない非常勤として仕事をさせていただきまして。でも障害のある人の仕事のというのは、雇用率に算定するためには短時間でも20時間というのがありますが、会社が長い目で見るとということになりまして、受け入れ先の配慮がいただけると、それ以下でも働き続けている方もおられます。それ以前に私自身が働けたのも、そういう環境がある程度整ってきたからだと思います。

私自身は特に高齢者施設で働いている障害者、以前はそんなことは考えられないことでしたが、いまは館内整備や調理補助や介護補助等ありまして、そういうところでの就労を支援させていただきました。高齢者施設も大規模化し、多角的な経営も行われていますので、今後とも障害者が働ける場だと思ひております。1年間自分自身としても大きな学びがあつて、感謝しております。



大塚 昨年4月からお世話になりました。あと3年間やれるもんだと思ひていましたので、突然5月で退かなければならなくなり非常に残念です。就労支援センターをこういう団体が運営してきたのは非常に画期的だったと思ひます。やはり、障害者の立場に立つての就労支援ということであれば、ほんとに今ノーマライゼーションという言葉が騒がれてはいますが、真の意味でのノーマライゼーションはなかなか浸透していかないと思ひます。やはり障害もつた方々が社会の中、職場の中で活躍していくことによって新しい価値観が生まれていくと思ひます。

そういう意味で、バトンタッチしたところがどこまで頑張つてやっていたか疑問符が付くんですけども、私たちが支援してきた方々の力に少しでもなれるように、これからがんばつていきたいと思ひます。



山崎 1年間ちょっと、昨年の3月から今年の5月までセンターで常勤として勤務いたしました。もちろんNPOの理事、運営委員をしておりますので、就労支援センターのいろんなことは初めてというわけではなかったんですけども、直接支援に回るといふ立場になるのは初めてでした。いろんなことがまだまだ自分の中でも整理しきれておりません。ただ、ひとつだけ、このNPOに関わる前から、私も今日娘と来ておりますが、障害の重い子の親ですので、いつも当事者、障害者の側に立つて考えることを自分の信条にしておりまして。

就労支援センターでも、とうぜん、就労したいと相談に見える方の味方でありたいといふも思ひていました。この人が働きたいというならば、何とか働く場所を探したい、他の人がこの人無理よと言つても、だって働きたいんだものね、そういう共感を持ちながら支援をしてきたかなと思ひます。これから世一緒に活動をしながら当事者と一緒に考えていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。



内野 毎週金曜日に、主に企業訪問をしてきました。なかなか企業に行つてもいい対応は受けませんでしたけども、その中で、障害雇用率の対象にはならない週2回、昼食の調理だけするという形である男性に就職してもらつたり、たまたま職場に行つたら「その人は辞めました」と言われて、困つたなと思ひながらも、「すみません。別の人に実習させていただきませんか」と言つたら「いいですよ」といふことで実習をさせてもらつたり、前の方が真面目にやつているのもう一人仕事をする人がいないかと言われ、もう1人採用してもらつたこともありました。

やっぱり会社回らなくちゃいけないなという実感と、会社に入ることによつて、社長さんや人事担当の方だけでなく、職場の皆さんにも障害のある人のことを理解してもらえんという感想を持ちました。



谷崎 1年余り手伝いをさせてもらひました。すべてが中途半端で終わつてしまつたという感じで、引き継ぎももろくにできないで、はい時間切れで終わつてしまいました。でもこういう結果になつたことは事実として受け止めて行かなければいけないと思ひます。6月からは私がハローワーク通ひになっております。

沖山 いま中途半端と言われましたが、彼女も6月になってから完全なボランティア状態で、新しい支援センターの職員と一緒に事業所へ行つて、実習ののつかかりまで行つていた所の支援もしてきています。尻切れトンボにならないよう、ボランティアで行つていただいたんですね



日吉 毎週火曜日、就労支援センターで事務関係をやつていた日吉です。こういうかたちでセンターが無くなり、いま本部だけになつてしまつて、自分から言葉をどんどん言つて行ける人はいいんですが、そうでない人は世一緒にまだまだ話したい、向こうの職員さんにはまだなじめない方がたくさんいて、世一緒に来る方がたくさんいます。なるべくこれからそういう人たちの背中を押して行きたいと思ひます。



山下 私は決まつた日ではありませんが、就労支援センターの非常勤として仕事をやつて来ました。もともとは重い障害のある人が家の中に閉じこもつたまま大人になつたり、施設の中で一生を送つていく、そういう中から街に出て行つて一緒に生きようという活動をしてきました。重い障害者が街に出て周りの人に声をかけて介助を募つて、地域の中で自立生活をしていきました。でも仕事もしたいといふことで、自分たちで事業所を作つてお店をやつたりして来ました。実際に地域の中に出て行つて、周りの人たちがいろんなことをやつていかないと。やっぱり、こんな風にやつたらできるということを証明していった。そういう中で制度も出来ていきました。そういう風にやつてきたけど、もうひとつ、その自立生活をしてる障害者とかが共に働く店が、どんどん周りの人たちから孤立していつてるなと思ひようになりました。あの人たちは専門家しか関われないといふことで、分けられてきちゃつてるとなつた。

そうした時に、就労支援センターに関わることによつて、実際に事業所訪問をすると、いままでは見えてなかつたけど、地域の小さな事業所の職場の中では、けっこう障害のある人達がいて、彼らと同僚や先輩がいろんな工夫をしながら働いているんだなということがわかつてきました。それは就労して職場の中に入つていきたいという障害のある人たちと一緒に動いたから、わかつたんですね。地域ってまだまだ捨てたもんじゃないんだなと感じました。非常に残念な事に就労支援センターの受託はストップしましたが、市の方にもいろいろ事情があるんだと思ひます。まだまだ自分たちが地域に出て探りながらやれることはあるはずですよ。世一緒に活動はこれからもやつて行くのでよろしくお願ひします。



総会記念シンポジウム報告

「優先調達、共同受注、中間的就労—共に働く地域をいかにきりひろくか」

基調講演 八王子市障害福祉課長・古川由美子さん

定期総会の後、記念シンポジウムを行いました。基調講演は八王子市の古川課長。当会としては、越谷市が中核市に移行した直後に就労支援センターの受託が終ったこともあり、やはり中核市になった八王子の動きに大きな関心をもってお聴きしました。

八王子市は市就労・生活支援センターふらんに対して、昨年度、今年度と1名ずつ増員の予算をつけ、常勤9名、非常勤3名の態勢と聞き驚きました。庁内ワークシェアリングは最賃を支給しながら就労準備のための実習として行われていますが、市職員と一緒に働くことで誰にとってもわかりやすい仕事ができるようになるメリットも指摘されていました。

優先調達については、当会が交流してきた八王子ワークセンターを共同窓口として、1億5千万。その大きな部分はワークセンターが運営するプラスチック中間処理工場（障害者30名雇用）です。今年度はさらに手作業による不燃物の分別をB型事業所に発注すると述べられました。

中核市になって権限が移譲されたことを活用するために、福祉施設の設備運営基準を作る中で、障害者雇用と障害者就労施設への仕事の発注を努力義務として盛り込んだそうです。差別禁止条例も施行し、共に暮らす街への意欲満々の報告でした。

パネリストからの問題提起

上尾市のグリーンドア施設長・竹村絵里さんは、同市の担当者と八王子市を見学したいと語りました。自立支援協議会の就労支援部会で、各施設共同で市から掃除の仕事をと話し合っていたところへ、県から特別支援学校の清掃の仕事が入り、広いので4事業所でシェアしたが、特別な掃除は前から働いていた人を継続雇用し、グリーンドアが代表事業所になりました。いつのまにかまとめ役とその他に分かれてしまいご苦労されているとのこと。

戸田わかき会の事務長・草柳努さんは、戸田市は八王子市の7分の1の人口だが、共同受注センターに4700万出しているのはえらいと言います。全市町村を見て、優先調達が進んでいる所はなんらかの形で共同受注の仕組みがあるところだが、言いだしっぺは最初苦労するものだと言います。また、戸田市の場合共同受注に出してほしい仕事があっても障害者職員を採用してやらせてしまうこと、共同受注でがんばる障害者はやがて就労して出て行き重い人達が残るため、在宅の人達も含めて仕事を考えなければといったことを指摘していました。

ワーカーズユープ北関東事業本部エリアマネージャーの小野宏さんは、働く人自身が出資し、運営する団体として、地域に必要な仕事を立ち上げてきたと言います。4月から施行された生活困窮者自立支援法の



事業を全国60自治体で受託しているが、埼玉県内がいちばん多いそうです。清掃の仕事は長年の実績があり、草柳さんの話にあったように、障害者だけでなく生活困窮者ともつながりながら優先調達等を考えてゆければと語りました。

最後に当会の運営委員で、企業就労の経験も長い日吉孝子さんが、八王子市の取組みから学ぶべき所が多いことを述べました。また、草柳さんや小野さんの指摘を受けて、水上公園の花壇整備を例に挙げ、さまざまな障害者施設と在宅の障害者やひきこもっている人たちの組み合わせによるグループワークについて、最賃に満たない仕事でも社会で自分の仕事をするために出て行くんだというモチベーションを持てる枠組みについて語りました。

みんなでディスカッション

これらの発言を受けて、コーディネーターの朝日さんは、行政と福祉事業者との連携、施設・団体間の協力関係、多様な人々が分断されずつながる地域づくりという3点に関して深めてゆきたいと述べました。

古川さんは八王子市の優先調達方針を作った時に、市の全部の課の庶務担当職員を集めて、八王子ワークセンターの人に説明をしてもらったり、福祉施設の施設長会議の際にワークセンターと共同で売店の品を買い占めて見せながらPRしたそうです。PRに関する市の役割をおさえつつ、事業所同士の壁については市が立ち入れないのでそこは課題だと述べました。

草柳さんは共同受注している戸田のリサイクルプラザセンターの立ち上げについて、市役所の中に知恵袋がいたと述べます。

竹村さんは、行政とつながり市民とつながるためには、事業所の側が困りごとの範囲を広く持ち、せめて他の事業所の困りごとを一緒になって解決するくらいにならないといけないと語ります。草柳さんは、他

の施設、隣の市の施設、ワーカーズコープやシルバーともつながれなければ、発注者に喜んでもらえる仕事はできないと指摘します。

日吉さんは、越谷市の地域適応支援事業やグループワークの中で育った施設間の関係が、共同受注の枠組みの中でさらに顔が見える関係になってゆければと語ります。小野さんは、ワーカーズコープは地域まるごとのケアを行う福祉拠点をめざしていると語ります。それを受けて竹村さんは、地域の困りごとを一緒になって解決してゆくような仕事をしていかないといけないと述べました。草柳さんは、駅前清掃など、障害者もとにかく人前に出て行こうとしていると延べ、日吉さんも前へ出て行くことの大切さを確認しました。

これらの発言を受け、古川さんも私の理想は障害者がいろんなところで働く街づくりだと語りました。

最後に、コメントーターの越谷市障害福祉課副課長・角屋亮さんから、越谷市としては先進事例を聞けば聞くほど心が痛い、市の事情に即した共同受注に向け毎月のように検討会を重ねていること、越谷市第4次障害者計画の策定年にもあたっている、関係者の皆さんの意見を聞きながらしっかりやっていきたいと発言がありました。

コーディネーターの朝日さんからは、今日のテーマが協同であり、それは関係者、周囲だけの協同ではなく、いかに異なるところと協同してゆくかが大切だという話があったこと、またそのためにはだれのための就労支援なのかという原則に立ち返ることが重要であること、そして行政あるいは他の異なる団体と協同してゆく上で小さな、具体的な「やること」から始めることが大切であるというまとめがありました。

たくさん示唆を含んだパネルディスカッション参加者の皆さん、とりわけ遠くからおいでいただいた八王子市課長・古川さんに心から感謝いたします。



写真は7月14日の越谷水辺の市

世一緒 スタッフ日記



世一緒スタッフは離職後や未就労で、働くイメージが持てない人を含め、地域・職場への各々の参加の仕方を体験を通して探るため世一緒に関っている人達です。サポーター（非常勤やボランティア）の支えを受けて、世一緒の当番（ピアサポート実習）や仕事発見ミッション（事業所訪問）、グループワーク等を行っています。障害や病気のある人もない人もいます。

父の介護をしています

新井 孝治

僕は今年の初めに父が家中で転んでいるから、おかしいなと思姉さんの病院につれて行きアルツハイマー病でわかり、薬でなをすしかなないとわれました。でもとしが81さいだからしょうがないなと思ました。

父がだんだんとあるけなくなり医療介護2級に成り毎日が大変です。でもいこいの里に週3回かよっています。休みの時は兄妹で父のまわりのことをしています。食事を食わしてやったり紙おむつのとりかいは1日2回ぐらいでこうかんをしています。けれども母も脳こうそくで身体に障害をもっています。6月で80さいです。僕は7月で50さいの節目にきています。色々ありますけれども自分自身がしつかりとしないといけないなと思ます。

克己さんの介助でハケ岳

新井 里佳

朝7時越谷に集まりました。わらの会の車でした。橋本克己さんも車にのっていました。その日は朝早い天候でした、出発しました。車には人がのって田中さんという方

と一緒の車で話していました。高速道路も走って行きました。途中でトイレ休けいがありました。そこでは、橋本克己さんのトイレをやりました。車からおろしました。トイレがおわると車にのつきました。

ハケ岳名水会は車で最初豆の花という所にとちやくしました。話を聞くといろんな人が作業をしています。絵をかく作業をやったり、何か作ったりしていました。絵は大きくてとてもじょうずにみえました。

その後、皆でおそば屋さんに行きました。そこでは、かぼちやほうとう、とうふさんまい、おからころっけがありました。とてもおいしかったです。そして、帰りは清里に行きました。とてもけしきがすばらしかったです。克己さんはアイスクリームがおいしそうな顔で食べていました。ハケ岳よかったです。

デジカメの使い方

逆井 奈津子

7月3日（金）に、世一緒へ行きました。私は、機械類を操作するのが好きで、たまたま「デジカメで作業している人の写真を撮ってみよう。」と言われる、初めて「デジカメ」を操作してみることになりました。最初は、「上手に写真が撮れるかな・・・。」と不安で、いっぱい

した。実際に「作業」している姿、世一緒の出入り口など、何枚か撮って、山下さんと一緒に、きちんと撮れているか確認をしました。なんと撮っていたので、安心しました。その撮った写真を「SDカード」にコピーをしました。

今回の経験を生かして、何事も挑戦する事が大切だという事がよく分かりました。これからも色々な事に挑戦して、分からない事は、周りの人に教えて貰い、もし出来るようになったら、困っている人に、教えてあげられるようになれたらいいなと思ます。緊張はしましたが、今回教えて貰えてよかったです。教えてくれた、山下さん、周りの方々、ありがとうございます。

私の会社と卓球バレー大会

浅井 武夫

今私が働いている会社は、このとなり町の春日部市豊野工業団地内にあります。(株)ニューオタニ会社。靴底加工業会社に働いています。そして、仕事の内容はリーガル、メーカー品の本底を作る作業です。今は夏用品のサンダル底を作りながら、毎日工場内あつくてもあせをかきながら、皆さまと一緒に毎日午前8時30分から午後3時まで頑張っています。それから、いま月に2回、会社の

ハケ岳名水会の感想

山崎 有子

6月23日ハケ岳名水会に行ってきました。来ました。いく時は天気も良かったです。名水会では小学校の廃校になったたものに名水会があつて私が小学校に又戻ったよなかんじでした。ハケ岳が見えて良かったです。ハケ岳にもいろいろな市があつていいところでした。お昼はしょうがいしやが作っている食堂で山梨めいぶつのほうとを食べておいしいかったです。また行きたいです。

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会